

# Chichester Times : Special Tokiwa Issue

No.07-5 28 Feb. 2007

## クラス分け

カレッジのハーフターム（中間休業）も終わり、昨日（27日）から我が学生諸君も既存のクラスに編入されました。3Dから7まで7クラスに分かれています。例年のことですが、「なぜ私がこのクラスに？」と疑問を持つ学生が出ます。文法と作文による試験の結果ですから、予想外のクラスに配属されます。これから担当の先生に談判して、場合によってはクラス替えが行われることになります。ここで自己表現能力が磨かれることになるのですが、彼女たちはそれどころではありません。スペイン人学生に煽られ、宿題に精を出し(!)、今のところ必死です。ちなみに、授業は国際センターが入るC棟だけでなく、新装なった本館の Interactive Devices (Tina は使い方を知らないそうですが) のある教室も使って行われるようです。



## 運転マナー

数年前から本格的に導入されて絶大な成果を上げている Speed Camera 警告（脅し?）です。これに警告ランプ付きの標識も立っていますから、運転者はいやでも低速運転になります。この数日の好天気に誘われて美しい田舎道を走っていますが、かつてのようなのびのびしたドライブは望みようもなく、標識とカメラにびくびくしながらノロノロ運転に悪態をつく始末です。幹線道路では毎日のように事故があります。規制もやりすぎると本末転倒になりかねない、ということでしょうか？

## 私の部屋

この部屋で自炊生活をしながら、仕事をし、記事を書き、田園風景を眺めています。静かです。市街地にあるホテルの静かさとは一線を画します。朝はヒバリと雉の鳴き声で目覚めます。階段脇にはローズマリーはじめハーブの植え込みがあり、料理をしようという気になります。強いて難点を挙げれば、新聞を買うのに車で出かけなければならないこと、カレッジに朝出かけるのにひどい渋滞に巻き込まれることです。さらに、フライパンが薄くて卵が焦げる。ローストラムを焼こうとしたら煙感知器がピーピー鳴ってしまったことでしょうか。この優雅な生活もすべては、携帯電話とパソコンとレンタカーのおかげです。感謝。



## 鉛に封印された遺体

新聞によると、ロンドン大学の鳥インフルエンザ研究チームが、1919年のスペイン風邪で亡くなったサー・マーク・サイクスの遺体を墓地から掘り出すことになるそうです。かれの遺体は鉛で封印した棺に入っているのです、世界で最も状態の良い検体だそうです。サイクスは国会議員であり、上級外交官であり、第1次大戦後のベルサイユ平和会議の最中に39歳で亡くなっています。（吉川）